慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	デヴィッド・ヒュームの「貿易平衡」論（一）
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.7 (1920. 7) ,p.946(70)- 969(93)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200701-0070

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

デヴィッド・ヒュームの「貿易平衡」論（一）

高橋誠一郎

一

吾人は既に「デヴィッド・ヒュームの貨幣論」中に於て、貴金屬の夥多を以て、國富の尺度として視たる幾多のマーカンチリストが自然に貨幣定量説の信仰に陷れるを觀たり（三田學會雜誌第十四卷第三號所載）。而して貿易平衡論は其の隨伴者たる貨幣定量説より歸結する當然の結論に由りて破らるゝに至れり。最も熱心に貿易平衡の説を擁護せる Whig 黨の哲學者 John Locke が、一度び其の貨幣定量説の闡明に着手してより、不利なる平衡が外國貨物をして比較的に高價ならしむ可きを論じながら、是れに由りて再び平衡の恢復せらるゝに至るまで、輸入を阻害し、輸出を刺激するに至る可しとの結論に入らんとして、而も俄然其の論歩を停め、他の極めて薄弱なる主張に由りて率然マーカンチリズムの本據に復歸せることも亦た吾人の曾つて詳述せる所なり（同誌第十二卷第九號所載拙稿「ジョン・ロックの利子學説」（下）參照）。而して Locke の佇める所に佇むことなくして、其の論理上必然の歸結に到達し得たる者は David Hume なり。

而も貿易平衡論の信仰は既に早く第十七世紀の後半よりして其の動搖を感じつゝありしなり。吾人は既に Hobbes が國家の榮養は人生に資する物質の豐富に依賴すと論じたるを觀たり（三田學會雜誌第十三卷第七號所載「トオマス・ホッブズの政治哲學中に現れたる經濟學説」參照）。而して一千六百五十二年 B. W. なる匿名の一士によりて刊行せられたる書に Free Ports, the Nature and Necessitie of them Stated. と題せるものあり。著者は其の中に於て述べて曰く、自由港にして開設せらるゝことなく、又た這般の大貿易若しくは總貿易にして奬勵せらるゝことなくんば、總べて貿易に關する議論は悉く皆な結局我が消費を調整するの勸言に歸着するの外なく、而して精々我が輸入の平衡をして我が輸出を超過せしめざるの防止的效果あるに過ぎず、吾人自身を單獨に限定するは他方に於て之れを削減する道なり、即ちそは我が國民の航海上に於ける力を增加し、若しくは海外に於ける

交易を支配するに資することなきが故なりと(同書 p. 8.)。

二

同世紀末に至り、總べて受理せられたる輸入に對しては輸出に於て等價を支拂はざる可らずと做すの論は先づ一千六百九十年 Nicholas Barbon に由りて、其の匿名の著("by N. B. M. D.") A Discourse of Trade. 中に明確に主張せられたり。彼れは極めて狹少なる領土を有するに過ぎざる低陸聯邦及びベニス諸州の偉大と巨富とは克く交易の一國に齎す可き大利益と利潤とを立證するもの有りと做し、各地に於て容易に發見し得可き資料より成れる古代の兵器軍需が其の用を見ざるに至り、火藥の發明が隨處に發見し得ざる鑛物を以て資料となせる新たなる兵器軍需を誘入せるが爲めに、之れを有することなきものは交易に依りて取得せざる可らざることゝ爲り、而して貿易は國家をして富裕ならしむるが爲めに有用なると等しく、今や之れを維持するが爲めにも亦た必須と爲れりと做せり。而も彼れは交易が從來、殊に Munn (明かに Thomas Mun を指せるものなる可し)の如き商人に由りて、餘りに狹矮なる見地より考察せられたるを觀たり。多數の人士が交易に關する眞の觀念を有せざりし理由は、彼れ等が主として利害關係を有する交易の特殊部分に其の思想を適用し、而して該特殊部分を形成するが爲めに最良なる準則を發見したるを以て、彼れ等は交易の全部全體 (the Great Body of Trade) の構成に於ても同一總念に依りて其の思想を支配し、全體と部分との間に於ける種々なる權衡の法則を顧慮せざるが爲めに頗る不快なる概念を有するに存するものなり。即ち Barbon は先づ特殊交易の見地を離れ、一般交易のそれよりして立論せんとする者なり(同書 Preface. 參照)。

交易 (Trade) とは他のものに對して一種の財貨を製造し又た販賣するを謂ふ。製造は手工業 (Handy-Craft Trade) にして、製造人は職人なり、販賣は商賣 (Merchandizing) にして、販賣者は商人なり。交易の主なる目的又たは業務は有利なる取引を爲すに在り、一の取引を行ふに際し考量す可きものは販賣せらる可き商品、是れ等商品の數量及び品質、彼れ等の價値若しくは價格、該商品の購入せらる可き貨幣若しくは信用、該取引を遂行する時期に關する利益なりとす(同書 pp. 1-2.)。凡ゆる交易の商貨 (the Stock and Wares) は總べて海陸の生產する凡ゆる動物、植物及び鑛物なり。是

れ等の商貨は天然及び人工の二者に分つを得可し、前者は天然が彼れ等を生産せるがまゝに販賣せらるゝものにして、後者は技術に由りて天然が彼れ等に與へたるもの以外の形體に變せしめられたる所のものなり。是れ等兩種の商品は彼れ等が主として豐富なるか又たは製造せらるゝ國々の重要貨物と稱せらる(同 p. 3.)。重要貨物は又た自國産及び外國産の二種に分たる、前者は各國が自然に且つ最も良く生産する所のものにして、後者は一國が國外の地に對する獨占的交易若しくは特殊技術の獨占的所有に由りて取得せる一定の外國貨物なり。(同 pp. 4-5.)。

各國の自國産重要貨物は其永續不滅なる財貨より成る。自然の財貨にして無窮ならんか、是れよりして製造せらるゝ人工の財貨亦た無限ならざるを得ず。是れに由りて國家は個人と等しく、鄙吝、節儉及び奢侈禁止法に由りて富裕たる可しと思惟したるMunの所論は誤謬と爲る(Mun, England's Treasure by Forraign Trade. 1664. chap. ii, pp. 11-14. 參照)。斯くの如きは個人に取りては眞なるも、國家に取りては然らず。個人の資産は有限なるも、國家の財貨は無限にして嘗つて滅却せしめらるゝこと能はず、無限なるものは鄙吝に由りて增加を受くることなく、又た放埒に由りて減少を蒙ること能はざるが故なり。各國の自國産重要貨物は其の外國貿易の基礎なり、而して如何なる國家と雖も初め自國物産の交易に由りて輸致したる物以外に何等外國貨物を有することなし。外國産重要貨物は不確定なる富にして、一定の國家が交易及び技術の獨占を享有しつゝある間のみ獨り自國産物と等しく有利なるなり。而も他國民は同一地域に貿易を開始し、技工は利益を求めて他國に渡り、而して技術の秘密は發見せらるゝに至るなり。斯くて印度貿易は葡萄人の獨占破れてベニス人之れに參加し、今や蘭英兩國は前兩者よりも更らに大なる配分を有するに至り、曾つて主としてジエノア及びネープルスに限られたる絹業は後に至りて佛國に移り、更らに英蘭兩國に渡るを見るなり(Discourse of Trade, pp. 5-8.)。

三

本書中に於て特に注意す可きものは「貨物の價値及び價格」を論じたるものなり。凡ゆる貨物の價値は其の用より發生す。何等の用なき物は何等の價値なし。物の用は人間の缺感及び必要を滿足せしむるに在り。人類に固有なる二個の一般

的缺感は肉體的及び心意的のそれなり。是れ等兩樣の必要に供ふるが爲めに、天が下に有りと在る物は有用と爲り、是れに由りて又た價値を有す。肉體の缺感に供ふるが爲めに有用なる貨物は生命を支ふるに必要なる總べての物件なり。普通、食衣住に供ふるが爲めに有用なる財貨は總べて之れに屬すと做すも、而も嚴密に考査すれば食物以外に何物と雖も、生命を支持するが爲めに絶對に必要なるものなし。心意の缺感に供ふるよりして其の價値を有する貨物は總べて欲望を滿足せしめ得る底の物件なり。心意の缺感は無限なり、人は自ら仰望す、而して其の心意が高上すると共に、其の感覺は愈々微妙と爲り、愈々歡喜せしめらるゝを得るに至る。總べて稀少なる物に對して存する彼れの願望が其の覺官を滿悅し、其の肉體を裝美し、而して生活の安易、快適及び華麗を增進し得ると共に彼れの欲望は擴大し、彼れの缺感は增加す。心意の缺感を充足す可き多種多樣の物件中、肉體を裝美し、生活を華麗ならしむるに資するものは最も普遍的なる用を有し、有ゆる時代、有ゆる種類の人類中に在りて價値を有しつゝありしなり。知識の木の實が人類の兩親に及ぼしたる最初の效果は彼れ等をして自己を覆はしむるに存したり、而してそは爾餘の創造物よりして其の種族を最も明瞭に區別す可き物たらしめたり。人間以外に如何なる動物も肉體を裝美するものなきが故に、そは人間をして獸類より區別せしむるのみならず、人と人との間に於ける差別及び優越の標的なり。(同 pp. 13-16. Barbon は復た其の A Discourse concerning Coining the New Money lighter. 1696. に於て同一の論を反復せり、其の pp. 2-3. 參照)。

貨物の價格は現在の價値にして、彼れ等に對する所要若しくは使用を其の所要に資す可き數量に對して算當するに由りて生ず、何となれば諸物件の價格は其の使用に依賴するが故に使用せられ得る以上に存する貨物の過剩 (Over-pluss) は何物をも値せざるに至る。斯くて所要と比較せる夥多は物件をして低廉ならしめ、而して稀少は之れを高値ならしむ。交易業の貨物に對しては何等固定せる價格若しくは價値も存することなし。動植物は天候の影響を受くるが故に疫病、豐凶を免れずして、是れに由りて其の價値も亦た變動せざるを得ず。加之、大多數の物件の用は心意の缺感に供ふるに在りて、肉體の必要に基くものに非ず、而して是れ等の缺感の大多數は想像より發出するが故に、心意の變化と共に、是れ等の物件も不用

と爲り、軈がて又た其の價値を失ふなり（同、pp. 18-19.）。

然れども些少ながら諸物件の價値を推定す可き二個の道あり。商人が其の貨物に對して置ける價格は買入直段、諸掛り、及び利子を算定するに由り、工匠の價格は原料品の費用と之れに加工する時間を包含す。時間の價格は技術及び技術家の精練の價値に從ふ。利子は商人が依りて以て交易す可き規矩にして、時間は工匠のそれなり、是に由りて彼れ等は損益を計算するなり。即ち若し彼れ等が貨物の價格にして、其の夥多若しくは需要の變化に由りて、彼れ等が商人に利子を支拂ひ、若しくは工匠の時間に對して之れを支拂ふことなきまでに變動せりとせば、彼れ等は共に彼れ等が其の商賣上損失せるものと算定するなり。然れども市場は最良なる價値の判官なり、何となれば、買手及び賣手の集合に由りて貨物の數量及び之れに對する所要は最も良く知悉せらるゝが故なり（同 pp. 19-20.）。

四

Barbon は爰に章を改めて「貨幣、信用及び利子」を論じたり。貨幣は法律に據りて作られたる價値なり、而して其の價値の差違は該片の極印及び大さに據りて知らる。貨幣は二個の用を有す。一は價値の尺度にして、之れに據りて凡ゆる他物の價値は算定せらる。他は凡ゆる他物の價値に對する爲替若しくは典物なり。是の如き理由に據りて貨幣價値は法律に依りて確固たらしむることを要するなり。貨幣が金若しくは銀を以つて作らる可きことは絶對に必要なるものに非ず。蓋しそは一に法律に基きて其の價値を有するものにして、如何なる金屬の上に極印を押捺せらるゝやは重大なる意義を有せざるなり。貨幣は眞鍮、銅、錫又たは其の他の何物より成るも同一の價値を有し、同一の用を爲す。銅貨（フアジンシス）を以てする六片は銀貨を以てする六片と同一物を購入す。法律が何等の效力を有せざる國々に於ては金銀も亦た、眞鍮、銅及び錫貨と等して其の價値を變ず、而して極印を支持する金屬の價格以上を生ずることなし。是れに由りて凡ゆる外國鑄貨は秤量に依りて流通し、而して何等確定の價値なく、單に金屬の價格と共に騰落す。然れども、銀及び金を以て貨幣を鑄造する主たる利益は其の價値大なる金屬なるが爲めに僞造を防止するに存するも、單に之れのみならず、そは貨幣鑄造以外に他の用途を有し、且つ其の價値に比して容積小なるを以て、移送容易なる貨物なるが故に、商人に

取りて有利たるなり。是れが爲めに商人に取りては便宜なるも、國家に取りては往々にして貨幣を稀少ならしむるの害惡たるを示すが故に、大多數の國々には貨幣の輸送を禁止するの法制存すると雖も、而も之れを防止すること能はざるなり。或る者は金銀を重視すること頗る大にして、是れ等のものは自己の内に内在的價値を有し、而して之れに據りて凡ゆる物の價値を計量するものと信ず。斯くの如き誤解を生じたる所以は貨幣は金銀より成るが故に、彼れ等は貨幣と金銀の間に區別を設くることなきに存するなり。貨幣は法律に基きて確定の價値を有するも、金銀の價値は不確定にして、銅、鉛又たは其の他の金屬と等しく其の價格を變ず。價値を維持するは偏へに稀少に由るものにして、何等金屬中に於ける内在的效力若しくは性質(Intrinsick Vertue or Quality)に基くに非ず。何物も本然に確定的の價値を有することなし、而して凡ゆる物の價値に對して差違を與ふるは時と處となり(同 pp. 21-27.)。(尙ほ、彼れのA Discourse concerning Coining the New Money lighter.に現れたる其の貨幣論に就きては三田學會雜誌第十三卷第三號所載拙稿「ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論爭」(四)を參照せらる可し)。

信用は信念(Opinion)に由りて引起されたる價値なり。信用に二種あり、一は買手の能力に基礎を有するものにして、概じて短期信用なり、他は其の正直に由るものにして長期なり。斯くて Barbon は倫敦市に公設銀行を設立するの計畫を援護し、這般の施設は王國に在りては安全なること能はずと做すの俗論に答へ、英國の政體は專制に非ず、人民は自由にして立法に參與し、而して關稅は國庫の收入中に在りて巨額に達し、船舶は王國の堡壘たり、交易の繁盛は人民に對すると等しく國王の利益たる所に於ては、毫も憂懼の理由存せざるものと做せり(同 pp. 27-31.)。(Barbon は玆に其の筆を利子論に進めたるも、吾人は既に「十七世紀の英國に於ける利子論爭」(六)(三田學會雜誌第十二卷第七號所載)に於て之を紹介したるを以て玆に再錄せず)。

五

交易の用は生活の支持、擁護、安易、快適及び華奢に取りて必要なるか若しくは有用なる物件を作製し支給するに在り(同 p. 34.)。交易業に因りて自然の資料は諸種の加工を受け、有用ならざる貨物の餘剩は商人に由り輸送せられて、外國品と交

換せらる。交易業者は其の苦痛に對して一部を領し、地主は其の賃子に對して他の一部を取得す、斯くて交易に由りて、一般住民は良好なる食衣住を得るのみならず、富裕なる部類の者は生活の安易、快適及び華奢を增進す可き諸物件を供給せらる。交易は土地の賃子を引上ぐ、即ち諸般の加工に由りて、土地は自然的資料の產出を增加し、是れに由りて地主の配分は增大するなり。而して彼れの配分は貨幣を以て支拂はるゝも、財貨を以てするも同一なり、蓋し、貨幣は斯くの如き財貨を購入するが爲めに使用せられざる可らず。貨幣は交換の便宜の爲めに法律に由りて作られたる假想的價値なり。土地の眞の價にして又た賃子たるものは自然の資料なり。他に交易の利益たるものは、單に是れに由りて充實を齎せるのみならず、併せて平和を輸致したるに存するなり（同 pp. 35-39.）。

斯くの如きものは實に人類に對する交易の利益なるが、國家に對する利益亦多し。交易は人民に對して業務を與ふるに由りて國家の收入を增加す。即ち仕事を行ふ者は總べて其の衣食する物に由り、國家に對して何物かを支拂ふが故なり。如何なる種類の財貨を生產し、若しくは輸入するを以て國家に取りて最大の利益と做すやの論爭は是れに由りて決定せらるゝを得可し。唯一の差別は之れを製作するが爲めに使用せらるゝ勞働者の數より生ずるなり。斯くて生糸の輸入は金若しくは銀よりも國家に取りて有利なるを觀るなり。他の利益は、そが兵器彈藥の倉庫を準備するに由りて國家防備の上に有用なるに存す。而して其最後の利益は帝國の擴大を助成するを得るに在り、而して若し世界的帝國が再び此世に建設せられ得可しとせば、そは恐らく交易の援助、陸上に於ける軍隊よりも、海上に於ける船舶の增加に由りて行はる可きものなる可し。（同 39-41.）。特に歐洲に於て廣大なる領土を建設するは幾多の理由に基きて困難なるも、英國は斯くの如き帝國たる可く、他に比して最も適當なる位置に在る者と稱するを得可し（同 pp. 41, 60.）。

交易を增進す可き主要なる原因は貧民の勤勉及び富者の豁達なり。豁達とは身心の用の爲めに貧民の勤勉に由りて製作せられたる總べての物を大樣に使用するに在り。這般の德に對する二個の極端は放埒と貪婪なり。放埒は個人に取りては有害なる惡習なるも、交易に取りては然らず、貪婪は個人及び交易の兩者に取りて共に有害なる惡習なり。人の使用の爲めに準備せられたる財貨を消費せ

ざるに由りて「夥多」と稱する滯貨（dead Stock）を生じ、而して是れ等財貨の價値は低落し、貧婪なる者の資産は土地たると貨幣たるとを問はず、價する所少なきに至るが故に、彼れが現に富裕に赴きつゝありと思惟すると同一の徑路に依りて貧困を來しつゝあるなり。而して貪婪にして消費せざらんとする富者の徒黨は外戰と等しく交易的國家に取りて有害なる可し（同、pp. 62-63.）。被服及び居住は許多の交易業者を使用し、華美なる都市生活は國家の收入を增加するなり（同、pp. 64-70.）。

Barbon が以上の所說を以て吾人が曩きに論述したる Hume の「商業論」及び「奢侈論」と對比せば（二田學會雜誌第十三卷第十一號所載「デヴィッド・ヒュームの經濟論」及び同第十四卷第一號所載「デヴィッド・ヒュームの奢侈論と其の功利主義的倫理」參照）、吾人は Simon N. Patten を學んで、Hume を以て Mandeville の直接繼承者と做すの前（The Development of English Thought, 1904. p. 212.）、先づ彼れ等に先んじて、Nicholas Barbon 在りしことを記せざる可らず。

六

特殊貿易の平衡に對して一般貿易のそれを主張するの論は驟がて自由貿易論を產むの楷梯と爲れり。斯くて又た Barbon は「貿易平衡論」上に於ける Hume の先蹤を爲せり。Barbon 曰く、交易の禁止は其衰頽の原因なり。凡ゆる外國貨物は自國貨物との交換に由りて輸入せらる、從つて總べて外國貨物の禁止は夫れだけ之れに對して生產せられ交易せらるゝの慣ひなりし自國貨物の生產及び輸出を妨害するが故なりと。斯くの如き輸出の不足に由りて自國品は價値を低下し、而して土地の賃子は貨物の價値と共に下降せざるを得ず。彼れは外國貨物の輸入及び消費は自國製及び自國產の同種財貨の生產及び消費を妨害するものと做して禁輸を主張するの俗論を排し、外國貨物の消費は心意の缺感より生ずるが故に、之れに對して障害を設くるも自國貨物の消費を奬勵すること非ざる可しと做せり（同、pp. 71-73.）。假りに一定種の貨物の禁輸が特殊交易業者の利益と爲り、我が自國產同種貨物の消費增加を示す可しとするも、そは國家に取りて損失たるを示す可し。蓋し、國家に對する交易の利益は關稅及び最多の勞働者を使用す可き財貨より生ずるものなるが故なり（同、p. 75.）。若し外國品の輸入が自國品の生產及び消費を妨害すると云ふが如き稀有の場合を生じたりとせんか、這般の不利は當該財貨の禁

止に由りて除去せらる可きに非ず、寧ろ彼等をして自國貨物よりも常に高價ならしむるまでに之れに對して重大なる關稅を賦課す可きものなり。高價は其の一般的消費を抑制す可きも、彼れ等が高價なるが故に、之れを尊重す可き紳士階級の使用に對して之れを保留し、而して此の種關稅に由りて國王の收入は增加を見るなる可しと(同、pp. 78-79.)。

此のBarbonの著の出版せられたる翌年Sir Dudley Northは其のDiscourses upon Trade; principally directed to the Cases of the Interest, Coynage, Clipping, Increase of Money. の序文中に論じて曰く、輸出入貿易平衡の問題に關し、論爭甚しかりしは久しからざる以前のことなり。即ち吾人が輸出する所よりも、多額の貨物を輸入するものとせば、吾人は敗滅の大道に在る者なりと想像せられたるが爲めなり。之れと等しく吾人は東印度並びに佛國貿易に對する反對論及び其の他貿易上に於ける幾多類似の政治的幻想に就き其の多くを聽けり、而も時の經過と更らに優れたる見解とは之れが大部分を消滅せしめたり云々と(同、vii-viii.)。即ち貿易平衡に關する論爭が一時沈靜の狀態に在りしを物語るものなり。

Sir Josiah Childの如きも其のA New Discourse of Trade.(一千六百九十三年)中に航海條例に對する反對論として、同條例は商人及び船舶所有者に取りては頗る有利なる可きも、而も商人及び船主は全國民と比較する時は極めて少數の人士に過ぎず、大多數の利益は自國產の貨物及び製造品が吾人よりして最高なる價格を以て購入せられ、外國貨物が最低なる價格を以て吾人に賣却せらるゝに在りと做すの意見を擧げたり。而してChild亦た之れに答へて、單に一般多數の現在の利益のみに就きて考ふる時は其の眞なる可きを拒否すること能はずと做せり。而も彼れは英國が島國にして、其の防備は常に船舶と海員とに依れるが故に、利益と武力とは相關聯して考察するを絕對の必要と觀たるなり。(同書第四版、pp. 123-124.)。

七

Karl Marxが其のDas Kapitalに於て「經濟學史上のein wahres Phänomen.(I. S. 454.)と稱したるJohn Bellersは其のEssays about the Poor, Manufactures, Trade, Money, Plantations, and Immorality, with the Excellency and Divinity of Inward Light.(一千六百九十九年)に於て其の前著Proposals for Raising a Colledge of Industry of all useful Trades and Husbandry, with profit for the Rich, a plentiful living for the Poor, and a Good Education for Youth. Which will be an

a dvantage to the Government, by the Increase of the People and their Riches.(一千六百九十五年版、同九十六年再版、更らに一千八百十八年 Robert Owen 其の New View of Society. 中に翻刻す。Hyndman は其の著 Socialism in England. 中に於て、本書は曾つて紙上に表明せられたる經濟學に關する最も光輝ある思想の或る者を含有するものなりと爲せり。同書一千八百八十三年版 p. 85. 以下參照)に於て表明せられたる、使用せられざる貧民は磨かざる金剛石の如く、其の價値は未知なり、之れに反し規則正しく勞働しつゝある人民は國家の最大なる財寶にして又た勢力なり、何となれば勞働者なくんば、如何なる領主も存在すること能はず、而して若し貧困なる勞働者にして彼れ等自身を給養するよりも遙かに以上に食料及び製造品を生産するとなかりしとせば、總べての紳士は勞働者と爲り、而して有ゆる懶民は餓死せざるを得ずと做すの思想に基きて(本著の梗概を知らんとせば Sir Frederic Morton Eden の The State of the Poor: or, An History of the Labouring Classes in England. に據るを捷徑とす、一千七百九十七年版 vol. I. pp. 264-266. 參照)、土地と勞働とは富の基礎なり、而して吾人が懶惰なる者を有すること愈々尠少なれば、吾人は愈々急速に價値に於て增進す、而して吾人が生産する所よりも消費する所少きは我が輸出及び輸入より行はれ得可き如何なる計算よりも富裕となるの確實性遙かに大なるものなりと論斷せり(p.12.)。

固と「政治算術」の適用に由りて貿易平衡の狀態を積算するに熱中したる Charles Davenant の如きすら (Discourses on the Public Revenues, and on the Trade of England. Pt. i, 1698, The Political and Commercial Works. vol. I. 1771. pp. 146-148. 參照)後年に至りては幾多の重要なる諸國との貿易に關して其の不精確なるを認むる旨を言明せり。(A Report to the Honourable the Commissioners for putting in Execution the Act, intituled, An Act for the taking, examining, and stating the publick Accounts of the Kingdom. pt. i, 1712, Works, vol. V. pp. 381-382.)。

The Advantages of the *East-India* to *England*, consider'd. (Wherein all the Objections to that Trade, with relation, I. To the Exportation of Bullion, for Manufactures consum'd in *England*: II. To the Loss of Employment for our own Hands: III. To the Abatement of Rents: are fully answer'd. With a Comparison of the East-India And Fishing Trades.)の著者も亦た東印度貿易に對する非難に答へ、印度の製品に對して地金を輸出するは啻だに商人のみならず、國家に

取りてもより大なる價値を以てより小なる價値と交換するものなりと主張せり（一千七百二十年版同書 pp. 12-13.）。

Daniel Defoe の著として知らるゝ A Plan of the *English* Commerce, being a Compleat Prospect of the Trade of this Nation, as well the Home Trade as the Foreign. に於て其の匿名の著者は自ら、一定の貿易若しくは輸出の數量及び價値の推定に由りて算定を爲すが故に、凡ゆる偶然的測定に對する公然の反對者なりと聲明せり（本書の初めて出版せられたるは一千七百二十八年なり、同三十年第二版 p. 232.）。

「一國の富は其の住民の技巧及び勤勉に比例す可きものに非ざるや」を問へる Cloyne の僧正は、嘗て又た伊太利亞及び Lyons 間に於ける年々の貿易差額は前者に取りて約四百萬なるに非ずや、而して尙ほ、Lyons は此の貿易に由りて利得する者には非ざるか」、「貿易の平衡に由りて其の利得を決定するの一般法則は他の一般法則と等しく例外を許すことなきか」の問を發せざるを得ざりき。（The Querist, containing, Several Queries, proposed to the Consideration of the Public. 533, 555, 556. 本書の初めて世に出でしは一千七百三十五年なり、A Miscellany, containing Several Tracts on Various Subjects, p. 181.）。

總べて斯くの如き意見の表明に由りて助勵せられたる疑念は斯制度倒壞の道を開きつゝありしなり。而してそは貿易平衡の理論家に由りて表明せられたる凡ゆる禍害の豫言にも拘らず、第十八世紀を通じて繁榮を持續したる英國貿易の盛大なる狀態に由りて其の勢を速めたるなり（Stephan Baner, article "Balance of Trade" in Palgraves' Dictionary of Political Economy, vol. I. p. 87.）。

八

然れども斯くの如くして更らに合理的にして更らに自由なる新思想が次第に其の勢力を得んとしつゝある間に、他の一團の實際家は或る特殊貿易の利害を考察し、中に就きて佛國及び東印度貿易を以て有害なるものと觀るに至れり。蓋し Tory 黨は一貿易の存在其の者は一定階級の消費者に取りて直接有利なるを主張し、特に自國の工業を利するが爲めに保護的の關稅を課するを以て滿足し、一定の貿易を以て國家に取り、有害なるものとして排斥せんとすることなかりき。然るに Whig 黨は一方に於て自國の工業と競爭するの觀ある貿易は總て之れを禁止す

ると共に、他方に於て自國の工業に對して有利なる影響を有するものは出來得る限り、之れを發達せしめざる可らずと做し、而して其の有害なるものを立證するが爲めに貿易の平衡に由りて與へられたる指標に依賴せり。Sir J. Houblon, T. Papillon 其の他の有力なる倫敦商人によりて、英國が其の貿易に由りて一ヶ年九十六萬五千百二十八磅十七志四片を損失しつゝあることを主張するが爲めに統計的基礎を提供せる文書は作製せられ（Parliamentary History, Cobbett, App. cxv.）、貿易をして自國工業の用に資せしめんとするの努力は遂に一千六百七十八年に至り佛國貿易の禁止を導くに至らしめたり（29 & 30 Car. II. c. I, § 70.）。而して又た一千七百〇三年には葡萄牙産の葡萄酒に對し佛國産のそれに比し三分の二の關稅を以て輸入を許すに由りて同國に英國産毛織物の市場を確保するを得たるMethuen條約の締結を見たり。此のMethuen條約は一千七百十三年に於けるUtrecht條約に附帶せる通商約款の批准を困難ならしめたり。同一の原則は又た東印度會社に對する攻擊の論據を置けり。即ち同會社は扇子、毛織物及び絹織物の如き英國品と自國市場に於て競爭す可き財貨を輸入するものと見做されたるなり。而して這般の主張は亦た幾多の悲觀的なる貿易平衡論を産めるなり。（Ashley, Surveys, Historic and Economic, pp. 268—, Cunningham, Growth of English Industry and Commerce, Modern Times. Pt. I. pp. 456—.參照）。